



脱ネオニコで地域活性化

2023年度助成成果報告会

2024年5月25日（土）

猪瀬聖

目的

1. できるだけ多くの人にネオニコに関心を持ってもらう
(ネオニコの恐ろしさ、有害性を知ってもらうこと)
2. ネオニコの問題を身近な問題と感じてもらう

手段

1. 脱ネオニコに取り組む地域・団体等に取材し記事化
2. 専門家に取材し記事化

復活したコウノトリのペアはなぜここを子育ての地に選んだのか 《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》



小山市自然共生課撮影

絶滅した国の天然記念物はなぜ劇的復活を遂げることができたのか 《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》



国の特別天然記念物トキを蘇らせたのは持続可能な農業 だった 《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》



洗っても落ちない農薬がEUで禁止に 日本はどうか？ 《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》



10年で組合員数も売上高も倍増 関西の小規模生協なぜ 人気《シリーズ・ネオニコチノド問題を追う》



小学生の尿から殺虫剤成分を検出 民間団体が50人に調査 対策の必要性訴え

小学生の尿から殺虫剤成分を検出 民間団体が50人に調査 対策の必要性訴え

猪瀬聖 [エキスパート](#) | ジャーナリスト/翻訳家
3/19(火) 17:40



有機給食を実践する学校は増えている（福岡県のリンデンホールスクール、筆者撮影）

（お断り この記事は3月19日に公開しましたが、一部読者から「不安を煽るデマ」「農薬は悪という印象操作の記事に見える」との指摘があったとの連絡を受け、事実・データなどを補強した上で、見出しも含め内容を一部改訂しました。出典もできる限りURLを張りました。記事の中の基本的な事実関係は一切変更していませんが、写真も含め初版には入れていなかった様々な情報を新たに入れていきます）

成果と課題

1. ほぼ1万を超えるアクセスがあった
2. 取材しきれなかったという思い
3. 差別化の難しさ

最後に

- 現場を訪ね、取材できたことは非常に勉強になった
- また、ネオニコの取材を続けていく上で大きな財産になった
- その機会を与えてくれたabtには深く感謝したい